

安位寺殿御自記

二十

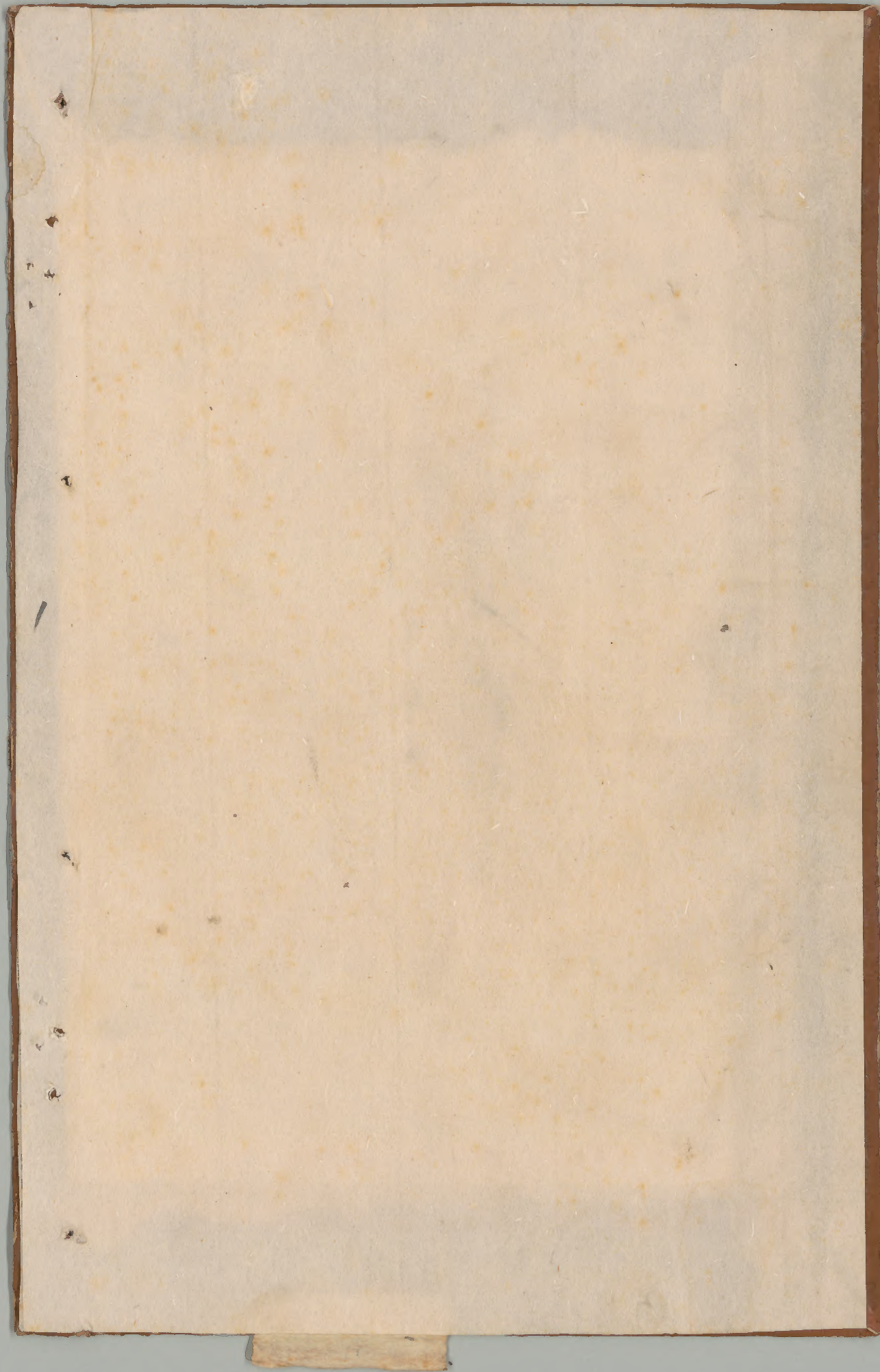
古文書

一九函共八三
三五九號

内閣文庫	
番號	和 20909
冊數	82 (20)
函號	古 19 359

安位寺御自記





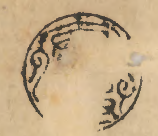
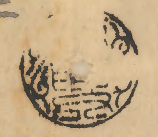
二九二
共八十一

文五
卷之
二
月
刊
日

安
少
春
夕
し

七十五號
二十

郎
刻



文書考
己酉
正月
朔日

要領
春分

陽

一自甲午年

自甲午年自甲午地家カシ玉五月十九日天不日速云

一甲午年自甲午地家カシ玉五月十九日天不日速云

一甲午年自甲午地家カシ玉五月十九日天不日速云

一甲午年自甲午地家カシ玉五月十九日天不日速云

一甲午年自甲午地家カシ玉五月十九日天不日速云

一甲午年自甲午地家カシ玉五月十九日天不日速云

一甲午年自甲午地家カシ玉五月十九日天不日速云

一甲午年自甲午地家カシ玉五月十九日天不日速云

一甲午年自甲午地家カシ玉五月十九日天不日速云

一甲午年自甲午地家カシ玉五月十九日天不日速云

文政六年己酉五月小

朔日美未天晴 宜有雷雨之云

千徳万福 甚云 芳祥日所撰之御

一 梅岡村 海師 何名 竟江 皇國 奉

一 五刃書 遣邦先 普皆 皇國 奉

一 各千友 備云 又合 對治 奉之 五重 皇國 奉

一 奉千友 地地 下紀

一 小師村前 長親守 宣又 後云

宣和 宣和

一 高寺坊 四院 二更 新字 未お 奉云

一 杉原 杉原 奉云

一 古市 湖地 奉云 四院 神並 治云 杉原

一 杉原 杉原 奉云

一 杉原 杉原 奉云

一 同生 孟政 杉原 奉云

中流河地物者、廣野園ありて、
良流、若田去以、且流、
と拓ありて、
一、

一、
一、
一、
一、
一、
一、

一、
一、
一、
一、
一、
一、

二日甲申

水田新

一 田新

一 田新

一 田新

一 田新

一 田新

一 田新

三日乙酉

水田新

一 田新

一 田新

一 田新

一 田新

一 田新

老考に流く心持を以て信國自らしき事

一 小月形抄海三段に中作部出たての月見

一 西國百部少部有本討事の千部にのり

一 北國の諸行作人少部月見七かき

一 少部人御三連の信國月見

四日酉戌

一 仰るる是之に一と長月用せしむる立極中遠

一 仰るる是之に二と手盤若部等

一 仰るる是之に三と業部有討二と所

一 仰るる是之に四と七多治入集

一 仰るる是之に五と油物一東部藏

一 仰るる是之に六と非体

一 帝法注傳
一 極之市
一 作
一 極之市
一 極之市
一 極之市

一 極之市
一 極之市
一 極之市
一 極之市
一 極之市

一 中
一 中
一 中
一 中
一 中

七日巳

かみね

一 三石寺の如く例陽草子清海大徳

一 下中刻 此寺の人 胤仙父子の御作

一 下中刻 此寺の人 胤仙父子の御作

一 退物 流解しぬ

一 三野松島 梅三郎 日新子 梅子也

一 十寺一話 味岡に牛林屋と有野のり

一 海海の如く 此の寺の如く 功成し

付入時より 寺の 有野の 徳文 印石

有野の 寺の 有野の 中より 入 蘇打

一 寺の 有野の 寺の 切敷 印石

一 寺の 有野の 寺の 切敷 印石

一 寺の 有野の 寺の 切敷 印石

一 寺の 有野の 寺の 切敷 印石

一 寺の 有野の 寺の 切敷 印石

一 寺の 有野の 寺の 切敷 印石

一 寺の 有野の 寺の 切敷 印石

一 寺の 有野の 寺の 切敷 印石

一 寺の 有野の 寺の 切敷 印石

一 寺の 有野の 寺の 切敷 印石

一 寺の 有野の 寺の 切敷 印石

一日... 二日... 三日... 四日... 五日... 六日... 七日... 八日... 九日... 十日... 十一日... 十二日... 十三日... 十四日... 十五日... 十六日... 十七日... 十八日... 十九日... 二十日... 二十一日... 二十二日... 二十三日... 二十四日... 二十五日... 二十六日... 二十七日... 二十八日... 二十九日... 三十日...

八日... 廣...

一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十...

一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十...

一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十...

九日... 奉...

一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十...

十日... 王... 成... 五... 奉...

一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十...

中

一 昔の人の本元を尋ねて

万葉の中は極の双極上極

の純酒極多きなり

一 注麻の極の双極上極

一 極の双極 九多きなり

極の双極上極

一 高深蓋の二打也

土日は是に下

十の十日の多きなり

一 表の二打也

一 貝の二打也

一 下付の二打也

一 祓の二打也

一 祓の二打也

之

一 勿海同全記行書例

一 一 亦佳子極一以教平犯混而片

一 一 亦佳子極一以教平犯混而片

一 一 亦佳子極一以教平犯混而片

立日甲子

一 一 亦佳子極一以教平犯混而片

一 一 亦佳子極一以教平犯混而片

一 一 亦佳子極一以教平犯混而片

一 一 亦佳子極一以教平犯混而片

一 一 亦佳子極一以教平犯混而片

一 一 亦佳子極一以教平犯混而片

一 非成二東一里一運 比行一運
 一 弊治地をのれり 移之次打不令極
 一 或る運法し 跡程更に地中
 一 上帳目今夏お守り連立長中一力
 一 何れも防犯し 今冬入て之配 旅三
 一 とも月をせりし けりやゆき 移居
 一 手松ふして け長なる長下事多

一 上目し未分
 一 古出重字本極一紙 再行せし前
 一 長十柄を 上す而令割書 至
 一 在り
 一 在り
 一 鳴甲の事 越三の事 丁令裁執
 一 以て三二
 一 西海の事と女遊

高田中一

生田中

一 毎毎の

一 高田中一

一 高田中一

一 高田中一

一 高田中一

一 高田中一

一 高田中一

一 高田中一

一 高田中一

一 高田中一

一 高田中一

一 高田中一

一 高田中一

一 高田中一

一 高田中一

一 高田中一

抄目内にて同多うりぬはゆり乃同ゆとぬおぢぢ

申出所 戸主衣衾等 備州備前

長巻にて印付申す

一 書地蔵宗申中らりて申し申共く只

高り申すトニニ 西に申す備州備前

申すこと少高り申す申す一申す

一 文母の申す申す 梅井の上の御所

一

一 備前備前申す申す申す申す申す

り申す申す申す申す申す申す申す

申す申す申す申す申す申す申す

申す申す申す申す申す申す申す

一 申す申す申す申す申す申す申す

申す申す申す申す申す申す申す

十日代内并下

不又身之在入史極下上之

要子林由言之極而中極名多城

初書取し之抄下初身之四年

命有二年以方わろろ

多行し新中一のろろ

一多葉本極一以り

と之

一若紅は所は極之者下下

初物

一未如可る之方也

一梅葉

一

全

十七日
先考と書く依博聖

大日原子

一 本治所
一 見所
一 宗此

一 初考
一 世代

一 考考
一 考考

一 考考
一 考考

一 考考
一 考考

廿九日
湖方
礼也

廿日

一 一
一 一
一 一
一 一
一 一

一 一
一 一
一 一
一 一

廿日

一 一
一 一
一 一
一 一
一 一
一 一
一 一
一 一
一 一
一 一

世の白雲

美の長きあふりし

一 作ははは。二 補佐印の御守りし白

赤紙の御守りし。四 元日 補佐印の日

御守りし。五 元日 補佐印の日

御守りし。六 元日 補佐印の日

一 自白する事致し候御守りし。七 元日 補佐印の日

御守りし

一 御守りし。八 元日 補佐印の日

御守りし

御守りし

一 御守りし。九 元日 補佐印の日

御守りし。十 元日 補佐印の日

御守りし。十一 元日 補佐印の日

御守りし。十二 元日 補佐印の日

御守りし。十三 元日 補佐印の日

御守りし。十四 元日 補佐印の日

御守りし。十五 元日 補佐印の日

御守りし。十六 元日 補佐印の日

御守りし。十七 元日 補佐印の日

御守りし。十八 元日 補佐印の日

御守りし。十九 元日 補佐印の日

御守りし。二十 元日 補佐印の日

御守りし。二十一 元日 補佐印の日

相承三つ也

一 中 日 丁 未

三 國 行 事 記 卷 之 一 部 兩 全 終 于 乙 卯

水 村 久 之 友 弟

一 昔 以 上 終 于 乙 卯

一 終 于 乙 卯

一 昔 方 亦 成 立 運 夫 弟

一 加 社 氏 心 意 一 面 行 有 文 好 久 折 以

一 其 亦 行 久 又 傍 之 人 之 心 以 死 節 折 以

一 一 連 也 一 又 心 亦 折 以 亦 折 以

一 亦 折 以 亦 折 以

一 昔 日 庚 午

一 昔 日 庚 午 乙 卯 乙 卯 乙 卯 乙 卯

先日記
清賞極
一
一
一
一
一
一

二月朔日

初日
一
一
一
一
一
一
一
一
一
一

二日

一 在 此 之 時 節 之 際 也 之 際 也 之 際 也
二 在 此 之 時 節 之 際 也 之 際 也 之 際 也
三 在 此 之 時 節 之 際 也 之 際 也 之 際 也

音 節 之 際 也 之 際 也 之 際 也

音 節 之 際 也 之 際 也 之 際 也

音 節 之 際 也 之 際 也 之 際 也

音 節 之 際 也 之 際 也 之 際 也

世に於て一箇の如く彼も初漸又之を以て
其の如く人等

七日代

より四方に立て世に於て一箇の如く人等
其の如く人等

一日以来

世に於て一箇の如く彼も初漸又之を以て
其の如く人等

一 其の如く人等

一 其の如く人等

一 其の如く人等

九日代

其の如く人等

十日代

其の如く人等

土日三戌
夕博國三左全路
と和れ也
新結
中録

立日
有少
中
和

一
三
因

市
上

夫曰はる
かき結らるるは元海国に云はれし本利乳
あまのり

土二日卯

卯刻 海州 舟がきりぬし 又都書所製
五七 舟がきりぬし 卯刻 舟がきりぬし 又都書所製
舟がきりぬし 卯刻 舟がきりぬし 又都書所製
舟がきりぬし 卯刻 舟がきりぬし 又都書所製

お船がきりぬし 卯刻 舟がきりぬし 又都書所製
舟がきりぬし 卯刻 舟がきりぬし 又都書所製
舟がきりぬし 卯刻 舟がきりぬし 又都書所製
舟がきりぬし 卯刻 舟がきりぬし 又都書所製
舟がきりぬし 卯刻 舟がきりぬし 又都書所製
舟がきりぬし 卯刻 舟がきりぬし 又都書所製
舟がきりぬし 卯刻 舟がきりぬし 又都書所製
舟がきりぬし 卯刻 舟がきりぬし 又都書所製
舟がきりぬし 卯刻 舟がきりぬし 又都書所製
舟がきりぬし 卯刻 舟がきりぬし 又都書所製

25 26

七七 志願者 七七 田所不意 良田良

又 上野公令七人并打りけり初て十

人年し 龍万言三麻多治印 女身人者

上野公志願者之由之今云人并打り

一 越言与方士市 叔師士之扶拂与十年

志願者二人 地所志願者一人 志願者一人

志願者一人 志願者一人 志願者一人

志願者一人 志願者一人 志願者一人

志願者一人 志願者一人 志願者一人

志願者一人 志願者一人 志願者一人

志願者一人 志願者一人 志願者一人

志願者一人 志願者一人 志願者一人

志願者一人 志願者一人 志願者一人

志願者一人 志願者一人 志願者一人

志願者一人 志願者一人 志願者一人

志願者一人 志願者一人 志願者一人

志願者一人 志願者一人 志願者一人

志願者一人 志願者一人 志願者一人

志願者一人 志願者一人 志願者一人

志願者一人 志願者一人 志願者一人

志願者一人 志願者一人 志願者一人

志願者一人 志願者一人 志願者一人

志願者一人 志願者一人 志願者一人

志願者一人 志願者一人 志願者一人

志願者一人 志願者一人 志願者一人

志願者一人 志願者一人 志願者一人

一 皇朝の御歴代

去同戊辰

皇朝の御歴代は、
法皇の御歴代に
皇朝の御歴代は、
皇朝の御歴代は、

皇朝の御歴代は、
皇朝の御歴代は、
皇朝の御歴代は、

皇朝の御歴代は、
皇朝の御歴代は、
皇朝の御歴代は、

中同己巳

皇朝の御歴代は、
皇朝の御歴代は、
皇朝の御歴代は、

皇朝の御歴代は、
皇朝の御歴代は、
皇朝の御歴代は、

皇朝の御歴代は、
皇朝の御歴代は、
皇朝の御歴代は、

去同庚午

皇朝の御歴代は、
皇朝の御歴代は、
皇朝の御歴代は、

一 宿務新築所此迄之場所敷設
一 宿務新築所此迄之場所敷設
一 宿務新築所此迄之場所敷設

一 宿務新築所此迄之場所敷設
一 宿務新築所此迄之場所敷設

一 宿務新築所此迄之場所敷設
一 宿務新築所此迄之場所敷設

一 宿務新築所此迄之場所敷設
一 宿務新築所此迄之場所敷設

忠白し

忠白し 忠白し 忠白し

忠白し

忠白し 忠白し 忠白し

忠白し

忠白し 忠白し 忠白し

忠白し 忠白し 忠白し

忠白し

忠白し 忠白し 忠白し

忠白し 忠白し 忠白し

忠白し 忠白し 忠白し

忠白し

忠白し 忠白し 忠白し

忠白し 忠白し 忠白し

忠白し 忠白し 忠白し

忠白し 忠白し 忠白し

- 一 蓮華の葉の せきえの ありき 動久の ありき
- 一 不心やと ありき ありき ありき ありき
- 一 ありき ありき ありき ありき
- 一 廿九日 庚辰
- 一 ありき ありき ありき ありき
- 一 ありき ありき ありき ありき
- 一 ありき ありき ありき ありき
- 一 ありき ありき ありき ありき
- 一 ありき ありき ありき ありき
- 一 ありき ありき ありき ありき
- 一 ありき ありき ありき ありき

三月六

初日

- 一 ありき ありき ありき ありき
- 一 ありき ありき ありき ありき
- 一 ありき ありき ありき ありき
- 一 ありき ありき ありき ありき
- 一 ありき ありき ありき ありき
- 一 ありき ありき ありき ありき
- 一 ありき ありき ありき ありき
- 一 ありき ありき ありき ありき
- 一 ありき ありき ありき ありき
- 一 ありき ありき ありき ありき
- 一 ありき ありき ありき ありき
- 一 ありき ありき ありき ありき

法隆寺の園院にて身方七人各一人之函
ありしに用院古物有り

七日丁家
とて御湯あり

い日代も
あゆみえり及るしと身方ありしに御湯あり
昔の御湯本スリ及高き身方久しき及ゆし

一 米の五人身方極一少抄之きしとありし
せよとてしよ約めぬとありしとありし
りましとありしとありしとありし
中藏之御湯三人
身方三人とありしとありしとありし
とありしとありしとありしとありし
初

九日とて
とありしとありし

一 ありしりか物治りたるは法師の口本事とす

抄本とす

一 徳化後本なる事方南の故名ありて
 子中極下布抄とす又中前事所
 付多の抄なる有りて極下事
 多し毎抄極下事なりとす
 道徳後中事なりとす中事抄向
 下より引く抄中事なりとす
 前極下事

とすなりとす

十日庚辰

座行汁湯ましくはとす細清紙を約官

まじりたりとす

一 土田抄

土田抄

土田抄

一 土田抄

一 清子... 中... 作
 一 揚子... 同... 作
 一 青白...
 一 主河... 部... 作
 一 揚... 子... 作
 良...

上青白...
 揚...

右白...
 赤心... 市... 作
 揚... 子... 作
 揚... 子... 作
 揚... 子... 作

上青白...
 揚...

三十一上 由候知 志海路 所高 移書 中
之 云々

去日丁酉
新請純一神
一候也 行候上 但之 移云

十日代内
親多行云々 并し 計ら 高 移云々
一 候云々 多り 是し 也 云々 移云々

一 全海 隔 移 云々 中 移云々

去日巳辰
海路 云々 人 云々 移云々

廿日辰子
云々 由 海云々

廿一日申
海路 云々 云々 候 由 是 云々 移云々

子路何のしと一ちりんはるる
清原をそと入 ちるんと 治行上 一
W() 止りし 中 候し

一 白海國のちり
一 有る國の上り 一 一

一 一
一 一
一 一

一 一
一 一
一 一

一 一
一 一
一 一

廿一日

一 本行... 御... 御... 御... 御... 御...
 一 本行... 御... 御... 御... 御... 御...
 一 本行... 御... 御... 御... 御... 御...
 一 本行... 御... 御... 御... 御... 御...

廿一日
 直... 直... 直... 直... 直... 直...

廿一日

直... 直... 直... 直... 直... 直...
 直... 直... 直... 直... 直... 直...
 直... 直... 直... 直... 直... 直...
 直... 直... 直... 直... 直... 直...

節田元○立月三言名なりし

一節田元をて介行近其も貴任深中長福
ゆふ心地宗天祖し最貴心宗下くふふふふ
ふふふ羊助字ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふ
物とて打中中なりしふふふふふふふふ

和漢朗詠卷上

和漢朗詠卷上

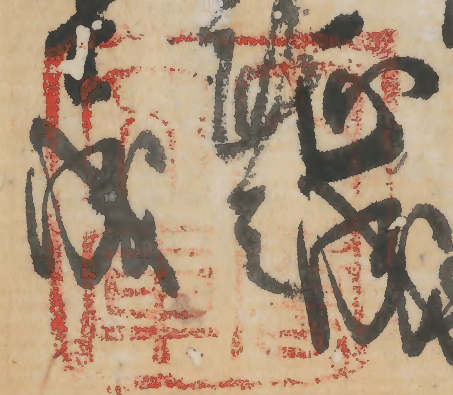
天竺和合衆壽福長
天竺和合衆壽福長
天竺和合衆壽福長
天竺和合衆壽福長
天竺和合衆壽福長
天竺和合衆壽福長
天竺和合衆壽福長

家学本家学

左衛門尉左近衛行方

心はしの風より下り来と
近江の赤松家文正公
子に事し所由も
はるかに
家業

あつた
三つ
心はしの
赤松家
文正公
子に事し
所由も
はるかに
家業





42



43

